2020 年度秋学期専門演習（第 7 回）

**日　時**　令和 2 年 11 月 9 日（月）　10:40~12:10
**場　所**　関西大学高槻ミューズキャンパス M802 教室
**出席者**　菅原，小林，岡部，嶋津，清水，猪田，中田，大山，中塚，長井，橋爪，芳村，東森，野上

文責：橋爪

11 月 18 日に実施される 2020 年度社会安全学部専門演習発表会に備え，発表の練習と予稿の確認を行った．

**小林「「基準」の裏側を探る」**

菅原ゼミは文理総合を掲げている．個人研究では,安全に関する基準や想定が,なぜその数値になったのかについて研究を行っている．基準や想定の数字の裏側を知ることで,基準値の妥当性を測ることができる．ゼミでの活動テーマは教員からは与えられず,ゼミ生が自分たちでテーマを探っていく．ゼミ生の研究テーマは,身近な物品に関するものから,日常から少し離れた分野まで多岐にわたっている．それぞれの発表を聞くことで,様々な安全に関する基準を深く学ぶことが可能である．

また,菅原ゼミでは全体で共通のプロジェクトを実施している．今年度は「新聞メディアは「接触 8 割減」をどのように報道したか」というテーマでメディア分析を実施した．結果としては,記事における行動喚起表現は,「接触 8 割減」を直接・間接的に促す記事が多くみられ,全紙共通して無批判的な内容であった.「接触 8 割減」が科学的なものと表象されたことが影響を与えたのではないかと考察する．これについてまとめた論文が学術論文集「社会安全学研究」に投稿中である．

科学は不確かさを持つものだが，あたかも確たる答えをくれるかのように思われることがしばしばある．この点から，安全の基準や想定の背景を探ることの重要性が理解できる．

橋爪：（予稿について）参考文献はないのか.

小林：図表は自分で作成したものである．他の参考文献は，文字数が足りず入れなかった.

菅原：参考文献を 2 つ程度入れてはどうか.

菅原：予稿の題名に副題をつけるとよい.

清水：ゼミ生の集合写真をスライドに入れるとよいのではないか.

猪田：ZOOM での他大学との活動（田中幹人先生,標葉隆馬先生との議論）についても，スライドか予稿に入れたほうがよいのではないか.

菅原：謝辞に入れたほうがよい.

中田：「表象」「コーディング」は言葉の意味がわかりづらい．注釈をつけるとよい.

菅原：「接触 8 割減がどう表現されたか（表象)」と書いてはどうか.「表象」は哲学的には奥深い概念であり，人間による認識の過程に重きを置いているため,「メディアが～～表現した」という能動的な表現では適切に意味を捉えきれない可能性がある.